

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●大阪杯ではベラジオオペラが連覇を果たす

4月6日(日)に行われた大阪杯(G I)では、ベラジオオペラ(牡5歳/栗東・上村洋行厩舎)が昨年に続いて優勝し、レース史上初となる連覇を達成しました。

●上里直汰騎手がJRA初勝利をあげる

4月5日(土)の3回中山3日・第7レースではスベイドアンが1着となり、同馬に騎乗した上里直汰騎手(美浦・加藤士津八厩舎)は、JRA初勝利(31戦目)をあげました。

●ジョアン・モレイラ騎手がJRA通算200勝を達成

4月5日(土)の3回中山3日・第9レースとして行われた山吹賞ではビクデムッシュが1着となり、同馬に騎乗したJ.モレイラ騎手(ブラジル)は、JRA通算200勝(668戦目)を達成しました。

●井上智史調教師と浅利英明調教師がJRA初勝利をあげる

4月5日(土)の2回阪神3日・第7レースではサンダーバースが1着となり、同馬を管理する井上智史調教師(栗東)は、JRA初勝利(延べ14頭目)をあげました。また翌日の3回中山4日・第8レースではビジュブリランテが1着となり、同馬を管理する浅利英明調教師(美浦)もJRA初勝利(延べ8頭目)をあげました。

●オマツリオトコ、クリノプレミアムの競走馬登録抹消

2022年兵庫ジュニアグランプリ(園田・Jpn II)の勝ち馬オマツリオトコ(牡5歳/美浦・伊藤圭三厩舎/JRA通算10戦2勝・地方6戦1勝)と、2022年ローレル競馬場賞中山牝馬S(G III)の勝ち馬クリノプレミアム(牝8歳/美浦・伊藤伸一厩舎/JRA通算35戦5勝)は、1月15日(水)までに競走馬登録を抹消されました。オマツリオトコは地方・園田競馬へ移籍済みで、クリノプレミアムは北海道日高町の賀張宝寄山育成牧場で繁殖馬となる予定です。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●メイショウハリオが川崎記念(川崎)で4度目のJpn I 制覇

川崎記念(Jpn I、4月9日、川崎、2100m)は、中団から2周目の向正面で一気に追い上げ、3コーナー過ぎに先頭に立った3番人気のメイショウハリオ(浜中俊騎手、牡8歳、父パイロ)がディクテオン(大井)に3/4馬身差を付け、2023年の帝王賞以来となる勝利を収めました。単勝1.6倍で断然人気のサンライズジバングは3着、逃げたメイショウフンジン(大井)は5着、2番人気のグランブリッジは6着、ポタジェは10着、ダイシンピスケスは11着に敗れています。

●ネクストスター西日本はジュゲムーン【各地の主要3歳重賞】

ネクストスター西日本(3月23日、佐賀、1400m)は、先手を取った高知からの遠征馬ジュゲムーン(牡、父コパノリッキー)が後続を2馬身引き離し、単勝1.3倍の支持に応えました。あやめ賞(3月23日、水沢、1400m、牝馬)は、5番手から差を詰めた3番人気のピカンチフラワー(父ホッコータルマエ)が直線の競り合いをアタマ差で制し、初の重賞制覇を果たしています。

●ガビーズシスターらが出走、4月16日の東京スプリント(大井)

東京スプリント(Jpn III、4月16日、大井、1200m)は、カペラSの覇者ガビーズシスターが最有力、以下サンライズホーク、エートラックス、イグザルト(大井)、エンテレケイア(浦和)、ダノンスコーピオン、ラプタスまでが争覇圏内と考えられます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●ドバイワールドCデー〜日本調教馬が3勝の大活躍

現地4月5日にUAE・ドバイのメイダン競馬場で行われたドバイワールドCデーに日本から24頭が7レースに出走。G 1・2勝、G 2・1勝の大活躍を見せました。

まず勝利を収めたのはG 2 UAEダービー(3歳、ダート1900m)にC.ルメール騎手を背に出走したアドマイヤデイトナ(牡3歳、父ドレフォン、美浦・加藤征弘厩舎)。好スタートを決めて逃げると、直線でもよく粘って0.04馬身差で優勝しました。G 1 ドバイターフ(北半球産馬4歳上、南半球産馬3歳上、芝1800m)で大接戦を制したのが昨年度のJRA賞最優秀マイラーのソウルラッシュ(牡7歳、父ルーラーシップ、栗東・池江泰寿厩舎)。C.デムーロ騎手とのコンビで中団を進むと、ゴール前で先に抜け出していたロマンチックウォリアーをかわして0.01馬身差で優勝。昨年のマイルチャンピオンシップに続くG 1(G I)・2勝目を挙げました。そして、G 1 ドバイシーマクラシック(北半球産馬4歳上、南半球産馬3歳上、芝2410m)を快勝したのが昨年度のJRA賞最優秀3歳牡馬ダノンデサイル(牡4歳、父エピファネイア、栗東・安田翔伍厩舎)。戸崎圭太騎手の手綱で中団追走から直線で鋭く伸びると、最後はG 2 キングエドワードVII世Sの勝ち馬カラダガンの追い上げを1.28馬身差しりぞけて優勝。昨年の日本ダービー以来となる2つ目のG 1(G I)タイトルを手に入れました。